

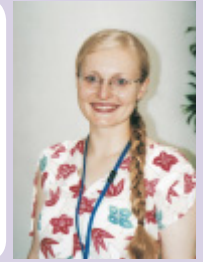
語学以外の専門分野で日本語を使って  
仕事をしている外国人を紹介する

# にほんご ハローワーク

## 第3回 語学を続けるには、まず心のつながりを作ることです

シュテファニー・ゼルマーさん

2003年から愛知県犬山市国際交流員として  
観光交流課に勤務。学校訪問、多言語情報誌  
の編集などの職務を通じ、母国ドイツの紹介  
と犬山市の国際交流事業を推進。旧東ドイツ  
生まれ。1996年全独日本語弁論大会で優勝、  
海外日本語学習成績優秀者研修にて1997年  
初来日、2003年から日本で暮らす。



### Q1：現在の仕事について教えてください。

犬山市の国際交流員として観光交流課  
で働いています。語学講座や料理講座な  
どを通して一般市民や学生にドイツの日  
常生活を紹介しています。他には犬山市  
に住む外国人向けの多言語情報誌の編集  
長をしています。年4回、6カ国語で発  
信して、幼稚園入園に関する情報や、プ  
ールや図書館の利用方法など生活に必要な  
情報を中心に、風邪をひいたときの対処  
方法や、日本の食材を使って作る料理の  
紹介、病気に関する日本語のコラムや英  
語が通じる病院の紹介などもしています。  
毎月2回発行されている『広報いぬやま』  
でも『シュテちゃんの風だより』という  
コラムを担当していて、ドイツから見た  
日本の感想や風習の違いを日本語で書  
いていますが、市民から「同感した」と  
声をかけられることもよくあります。ま  
た今年には愛知万博があったので、外国か  
らの来客も多く、通訳や翻訳の仕事も多  
かったですね。



### Q2：日本と出会ったきっかけと勉強の 方法は？

ハレ市 (旧東ドイツ) に住んでいた  
13歳のとき、ベルリンの壁が崩壊し、  
はじめて好きな所に行ける自由を実感し  
ました。高校卒業後に中国を旅行して  
いたへんなカルチャーショックを受けま  
したが、同時にアジアを強く意識したの  
です。そして中国で出会った日本人に影  
響されて日本語を勉強しようと思ったの  
です。

その後ドイツのフンボルト大学の日本  
語科に進みましたが、本科に進む前に一  
年間、毎週20時間日本語ばかり勉強す  
るコースがありました。最初の2週間で  
ひらがなとカタカナをすべて覚えて、さ  
らに毎週漢字を20個ずつ覚えなくては  
いけないんです。これが非常に厳しくて、  
途中でやめる人が多かったですね。ヨー  
ロッパの人は漢字を見たことがなく、形  
に慣れていないため、見ただけで圧倒さ  
れてしまうのです。それにヨーロッパの  
言語の場合、一つの単語に一つの意味で  
すが、漢字は、形があり、意味があり、  
さらにさまざまな発音を覚えなくては  
いけない。とにかく漢字には、苦労しま  
した。

しかし勉強をはじめて2～3年たつ  
と、漢字が好きになってきました。漢字  
の起源に興味が出てきて、日本人も読め  
ないような難しい漢字になると、ます  
ます闘志が燃えます。そのうちに、漢字を  
見ると心が落ち着くようになってしま  
した (笑)。今でも時々、夜寝る前に漢字  
の練習をして心を安らかにしてから眠  
ります。書道も習いはじめたのですが、漢  
字と向き合っていると無意識のうちに集  
中力が高まりますね。

### Q3：日本語の勉強を続けることができ た秘訣はなんですか？

大学1年のときに国際交流基金など主  
催の全独日本語弁論大会があり、そこで  
優勝したご褒美として国際交流基金日本  
語国際センターで行われている「海外日  
本語学習成績優秀者研修」に参加するこ  
とができました。いままで習った日本語  
が、本当に使えるのか不安がありました  
から、日本語を使うチャンスができてと  
ても嬉しかった。一人旅でまったく知ら  
ない日本人と話せて仲良くなったこと  
にも感動しました。そのおかげで、日本語  
の勉強を続けたいと強く思うようになっ  
たのです。

語学を続けるには、まず心のつながり  
を作ることが大切だと思います。友だち  
でも文化でもいいので興味をもつ。そう  
すれば言葉を勉強する張り合いが出ます。

(シュテファニーさんについて、より詳  
しく知りたい方は、ウェブサイト  
[http://www.jpj.go.jp/j/japan\\_j/publish/  
tsushin/index.html](http://www.jpj.go.jp/j/japan_j/publish/tsushin/index.html) をご覧ください)

### 『日本語教育通信』 第53号

2005年9月発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金  
日本語事業部企画調整課  
〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32  
アーク森ビル21F

The Japan Foundation  
Planning and Coordination Div.  
Japanese - Language Dept.

(Ark Mori Bldg. 21F, 1-12-32 Akasaka  
Minato-ku, Tokyo 107-6021, Japan)  
TEL. 03-5562-3525 FAX. 03-5562-3498  
E-Mail jfnctt@jpf.go.jp

編集協力  
財団法人 国際文化交流推進協会  
Japan Association for Cultural Exchange  
(ACE Japan)

(表紙イラスト：大石莊子) 古紙100%再生紙使用